

第3学年 国語科 学習指導案

日 時：平成30年10月4日（木）5校時

学 級：3年B組 男子11名 女子12名 計23名

授業者：菊池 麻衣子

1 単元名 「旅」を考える

中心学習教材 夏草―「おくのほそ道」から―（光村図書）他

2 単元について

（1）教材観

松尾芭蕉は四十六歳で出たこの「おくのほそ道」の旅に際して住居を人に譲り渡している。ここからは旅に生きようとする芭蕉の決意が感じられる。確かに三年生は「修学旅行」という見聞を広め、友情を深める旅をしたが、それは芭蕉の言う「旅」とは少し違うことを感じているようである。

「旅」という言葉には、深い意味が込められて使われる場合も多く、生徒はそれをつかみかねている。中学三年のこの時期は、自分の将来についても思いを巡らす機会が多くなる時期である。自分の人生・生き方と「旅」を重ねて表現している古人や現代人も多い。そうした人々の文章に触れ、中学校の三年間の古典の最終年に、古文の文章を端緒として現代にまで通じている人間のものの見方やとらえ方について考えるには、「旅」というテーマが最適である。松尾芭蕉の「おくのほそ道」は、漢文調の文体で書かれており、そのリズム、響きは心に残る。冒頭部分には芭蕉の旅の動機につながる人生観が述べられ、その内容は、「旅とはなんだろう」「自分たちはどうなのだろうか」と考えさせるきっかけとなる。さらに芭蕉が「おくのほそ道」で旅した地は、東北の観光地となっており、平泉などにも行った経験を持つ生徒にとって、この夏草の学習は情景を思い浮かべながら学習を進めることができるもので、芭蕉という一人の人間の「旅」への思いを考えるにはうってつけである。そこから多様な人々の「旅」への思いを求めようとする意欲も高まるものと考えている。そこで、書き手のものの見方や感じ方をとらえて、自分の考えを持ちながら文章を手がかりにして、課題に対して一人ひとりが自分なりの考えを深めることで、生徒の豊かな心情が養われ、成長が期待できるものと考え本単元を設定した。

（2）生徒観

生徒は三年生になって「握手」「春に」「俳句の可能性」などの文学的文章や韻文などを学習し、登場人物の気持ちを読み取ったり、言葉を手がかりにして作者の思いに迫ったりするような読みの学習に取り組んできた。説明的な文章の学習においては、筆者の意見をとらえた上で自分の意見を形成する読みの学習に取り組んだ。真面目に前向きに学習に取り組む集団であるが、全員が言葉を吟味しじっくりと考えたというよりも、一部の生徒の発言によって授業が進んでいる感は否めない。文章や言葉を手がかりとして、深いところまで読み取るということが十分できている生徒は多くなく、じっくり考えることを苦手としているため、安易に答えや結果を求めようとする傾向がある。そこで古文や文学作品の一人ひとりの「読み」を、周囲と共有しながら作品を「読む」楽しさを実

感させながら、様々な文章に表現されているものの見方や考え方をとらえ、課題に対して自分なりの考えを確立するという読みの学習を、書くという行為を意識的に取り入れながら行うことで、思考力や判断力、表現力を伸ばす読解力の育成につながるものと確信している。

(3) 指導観

「旅」についての考えといえば、芭蕉の「おくのほそ道」の冒頭部分はあまりにも有名である。本単元においては、作者のものの見方や感じ方をとらえながら、「旅」について自分の考えをもつこと、人はなぜ旅をするのかについて考えるために様々な文章を読み考えを深めることを、ねらいとする。

第一次で、旅について課題意識をもたせるとともに、単元のゴールとして「旅」についての自分の考えをまとめさせるという学習計画を示す。生徒は「書く」ことで、手がかりにした文章を明示することができるし、またそれをどのように解釈したのかを工夫して表現できる可能性が広がるからである。その際、筆者の考えを理解した上で自分がどう考えるかという意見をもつことを単元の目標としていることを生徒に理解させる。

第二次では、教材「夏草―「おくのほそ道から」の学習を行う。①音読する②情報を取り出す③解釈する④自分の意見を論述する、というサイクルで進め、芭蕉が旅に何を求めたかについてとらえさせていく。小グループや全体での話し合いでは、考えの根拠である文章や俳句を明確にし、それをどのように解釈したのかを明示させる。また、第三次に向けて並行読書を行いながら、「旅」について一人ひとりが考えをもつことができるようにしたい。

第三次では、第二次の学習を活用しながら、「旅」に対する自分の考えを広げたり、深めたりするために、「旅」をテーマにした交流を行う。前半の学習では、教師の準備した複数の共通資料も用いながら、「旅」に対する自分の考えを広げたり、深めたりすることができるようにする。その際、多様な考え方を引き出し、なおかつ自分の考えを自分の実感として置き換えて考えられるような発問を工夫する。そのことで文章解釈の際にその「旅」のとらえかたが似ていても、一人ひとりが違った説明の仕方ができることに気づかせていく。また、自分の旅のとらえかたを説明するために、短い言葉に置き換えることで、自分の考えをより確かなものにしていきたい。さらに、書く活動を位置づけることで、手がかりにした文章を明示したり、どのように解釈したのかを工夫して表現できるようにしていく。生徒一人ひとりが自分なりにとらえた「旅」を、吟味した言葉によって説明したり、自分の言葉で考えを整理し、まとめる姿を期待したい。その際並行読書等の内容を踏まえ、人はなぜ旅をするのかについて、さらに考えを深めていきたい。

3 単元の目標

- (1) 人間にとっての「旅」をとらえるために様々な資料から参考となる情報を集めて考えを深めようとしている。【国語への関心・意欲・態度】
- (2) 作者のものの見方や感じ方をとらえながら、芭蕉の「旅」について自分の考えを持つことができる。【C読むこと(1)エ(2)イ】
- (3) 人はなぜ旅するのかについて考えるために、様々な文章を読み、考えを深めることができる。【C読むこと(1)オ(2)イ】

(4) 作品の一節や俳句の一部を引用しながら、自分の考えを説明することができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ア(イ)】

4 指導計画

次	時間	学習活動	評価規準
第1次	1	<ul style="list-style-type: none"> 人間にとっての『旅』をとらえるために様々な資料から参考となる情報を集めて考えを深めることを把握する。 「旅」をした有名人が、どんな旅をしたのかを考え「旅」について課題意識を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 「旅」とはどんなものを指すのか、疑問を持つようとしている。 <p>【関心・意欲・態度】</p>
第2次	2	<ul style="list-style-type: none"> 「おくのほそ道」と松尾芭蕉について、基礎的な事柄を理解し「1」の部分を繰り返し音読する。 現代語訳、脚注を参考にしながら「1」の原文の内容をつかみ、冒頭部分の芭蕉の考えをとらえる。 「草の戸も」の俳句を鑑賞する。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品や作者について興味を持ち、学習のめあてをつかんでいる。 <p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現代人と古人の旅の前の準備について考え、当時と今の旅の違いを理解し、自分の考えをまとめている。 <p>【読むことエ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 歴史的な背景に注意して正しく文章を読んでいる。 <p>【伝統・特質】</p>
	3	<ul style="list-style-type: none"> 平泉についての歴史的な背景を理解しながら、「2」の部分を繰り返し音読する。 脚注を参考にしながら現代語訳する。 「2」の原文の内容をとらえ、俳句を鑑賞し、芭蕉や會良の心情をとらえる。 先の二句と後の一句、学習した俳句に詠まれている情景の違いを読み取り芭蕉の心情をとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代人と古人の旅の前の準備について考え、当時と今の旅の違いを理解し自分の考えをまとめている。 <p>【読むことエ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 歴史的な背景に注意して正しく文章を読んでいる。 <p>【伝統・特質】</p>
	4	<ul style="list-style-type: none"> 学習した俳句や、作品中の俳句から共通した要素を見つけ、芭蕉が旅に何を求めていたかについてグループで考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 芭蕉の俳句を読み、芭蕉の旅について自分の考えをもつことができる。 <p>【読むことエ】</p>
	5 本時	<ul style="list-style-type: none"> 学習した俳句や、作品中の俳句から共通した要素を見つけ、芭蕉が旅に何を求めていたかについて考え、芭蕉の「旅」を説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 芭蕉の「旅」についての話し合いを通して、当初の考えから自分の考えを広げたり深めたりしている。 <p>【読むことエ】</p>

第 3 次	6	・文章や資料を手がかりにして、「旅」とは何かについて自分の考えをノートにまとめる。	・複数の資料からそれぞれの筆者の「旅」とは何かについてまとめている。 【読むことエ】
	7	・文章や資料を手がかりにして「旅とは何か」について交流し自分の考えをまとめる。	・様々な資料を参考にして、自分の考えを持ち、「人間の旅」について説明している。 【読むことオ】
	8	・学習を振り返り、「旅」についての自分の考えをレポートにまとめる。	・「旅」について資料や他の生徒の意見を生かしながら自分の言葉でレポートを作成している。 【読むことオ】

5 本時の指導

(1) 目標 芭蕉の「旅」に対する自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

(2) 評価規準

評価の観点	評価規準	
	おおむね満足できる (B)	努力を要する生徒への手立て
読む能力	・芭蕉の「旅」についての話し合いを通して、当初の考えから自分の考えを広げたり深めたりしている。	・考えを整理しながらまとめることができるよう支援する。

(3) 研究主題との関わり

本時は話し合いを通して、生徒が、芭蕉の「旅」に対する自分の考えを広げたり、深めたりすることができることを目標とする。特に話し合いの場面で、多様な考え方を引き出し、なおかつ自分の考えを自分の実感として置き換えて考えられるような発問を工夫したい。それによって、文章解釈の際にその「旅」のとらえ方が似ていても、一人ひとりが違った説明の仕方ができる可能性が広がると考える。

俳句から自分なりの解釈をし、「旅」をとらえる際に注意させたいことは、あくまでも取り上げた語句を手がかりにした上での「旅」のとらえ方を考えるものであり、自分のもともとある考えを述べるのではないということである。そのため、課題に対する小グループや全体での話し合いの際には、考えの根拠を明確にさせ、それをどのように解釈したのかを明示させたい。

また、自分の意見を発表することを苦手としている生徒が多いが、自分の思っていること、考えていることを積極的に発表できるような雰囲気作りにも努めたい。「読むこと」の力は具体的な言語活動を通して高まると考える。そこで、自分の意見を述べたり、他の意見を聞いたりする中でそれぞれの考えを広げたり深めたりできるように、生徒たちの中から多くの発言をさせながら学び合いができる場にし、「自分の考えを持ち、表現できる生徒の育成」を目指したい。

(4) 本時の展開

※ (言) → 中心となる言語活動

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点 (◎評価)
導入 5分	1 学習課題の確認 一斉	1 学習課題を確かめる	<ul style="list-style-type: none"> 考えを前時までに予めまとめさせておく その際、自分の考えの手がかりとなった俳句、文章が何かも書かせておく
	【学習課題】 俳句を手がかりに芭蕉の「旅」について交流し、自分の考えをまとめよう		
展開 30分	2 学習課題の解決	2 学習課題を解決する (1) グループでの交流 ・芭蕉はどんなことに心動かされて俳句をつくったか、小グループで交流する (2) 全体での交流 ・芭蕉は旅に何を求めていたかということについて自分の意見を考える	<ul style="list-style-type: none"> 聞く側がとらえやすいように「○○に心動かされた」という短い言葉を考えさせ、その理由を説明させる 聞く側がとらえやすいように、「芭蕉は旅に○○を求めていた」という短い言葉で紹介させ、その手がかりとなった俳句や文章、理由を説明させる キーワードをジャンルごとに貼り直し、補足する
終末 15分	3 まとめ	3 芭蕉にとっての「旅」について話し合いを通して分かったことや自分の意見をノートにまとめる (言)	<ul style="list-style-type: none"> 交流を通して考え方に広がりや深まりが見られた生徒のまとめを発表させる ◎【読むこと・エ】 芭蕉の「旅」についての話し合いを通して、当初の考えから自分の考えを広げたり深めたりしている (方法: 観察・ノート・学習シート)
	【まとめ】 <ul style="list-style-type: none"> 芭蕉にとっての「旅」には過去の文化に触れるという目的があったからそれぞれの遺産を見た感動を俳句に詠み込んだ 芭蕉は「変わらないもの」を見つけるために「旅」に出た俳句の○○や○○という言葉にも表れている 芭蕉は無常観という考えを確立するために「旅」に出た文中の「～」からも読み取れる 		

	4 自己評価	4 学習を振り返り次時の見通しを持つ	・自己評価させるとともに、感想等についても記入させる
	5 次時の予告		・次時は「人間にとっての旅とはなにか」について学習することを確認する

(5) 板書計画

<p>・ 古人への憧れ</p> <p>・ 古人の考えに触れる</p> <p>・ 古人</p>	<p>・ 文化遺産が見たかった</p> <p>・ 美しい自然を求めた</p> <p>自然・文化</p> <p>・ 流転</p> <p>・ 変わらないものを見つけない</p> <p>・ 無常観</p> <p>変化</p>	<p>「旅」を考える</p> <p>学習課題</p> <p>俳句を手がかりに芭蕉の「旅」について交流し、自分の考えをまとめよう</p> <p>芭蕉はなぜ旅に出たのか</p> <p>手がかりとなった文章や理由を説明する</p> <p>(根拠をはっきり)</p>
------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------